

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300129		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木 (1階 2階 合同)		
所在地	静岡県藤枝市青木2丁目15-5		
自己評価作成日	平成26年8月12日	評価結果市町村受理日	平成26年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300129-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にある「その人がその人らしく」を大切に、支援をしています。 同法人内の医療機関と密に連携し健康の管理や定期、緊急受診に対応しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療法人の心強いバックアップ体制がある事業所です。なかでも災害対策では法人本部を無線基地局とした情報網が確立され、本年は管理者と職員の2名が無線資格を取得し地域防災の要として臨む態勢を整えています。また階下への避難迅速化に役立つ独自のスロープは屋内用と非常階段用を製作し、女性職員でも難なく利用できるアイデアには敬服しました。担当制をとらず個々の気づきを「肯定して受け止める」、管理者の考えが浸透し、大らかな職員に包まれた利用者の朗らかさは近隣の子ども達をも魅了しており、垣根のない自然なふれあいが暮らしに潤いを払っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。	出勤時には必ず目にはいる場所に理念が掲示してあります。職員全員で作ったこともあり敢えて唱和はしていませんが、会議や朝礼では実践例を掘り下げて振り返りを促しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事には、ご家族、近隣住民の方にも声をかけ、交流に勤めている、また地域の催し物にも積極的に参加している。近隣の子供さんが遊びに寄ってくれている。	新興住宅地で核家族が増える中、事業所理解が進み「じいじばあばと遊びたい」と日常的に子どもの訪問があります。町内会のお祭りにも出向き、子ども会樽神輿や屋台が立ち寄り地踊りを披露してくれるほどになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の飲食店を利用するなどして地域貢献に勤めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見をサービス向上に生かしている。	定期開催できています。市職員、民生委員、町内会長、自治会、社協職員をメンバーとし、より多くの家族に出てもらえるよう議事録を配布し関心を高めています。職員は輪番で書記を担当し記録も回覧しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。	運営推進会議にも毎回出席があり、また窓口への訪問で会話をもつ機会も増えていますが、介護相談員の訪問などで恩恵を受けてきましたが、今後はキャラバンメイトの活動で還元したい考えをもっています。	キャラバンメイトとしての活動を通じて市との協力関係がさらに深まることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。	法人内研修で学び、上に立つものが手本を見せていこうという姿勢で管理者やベテラン職員が臨んでいます。スピーチロックはマニュアルのなぞらえにならないよう、場面に応じた対処を話合っています。玄関は夜間を除いて施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について冊子などで学び虐待の無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。	議事録配布により運営推進会議への参加も増え、感謝の言葉が多く聞かれています。毎月の活動は盛りだくさんの写真として『実夢タイムズ』に掲載し、遠方の家族にも様子がよくわかれると好評です。	行事を通して家族がさらに事業所へ足を運べる機会が作られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。	勤務シフトでその日の係を受け持つことから多角的な視点の意見が挙げられています。「肯定して受け止める」姿勢を貫く管理者の考えは職員間にも波及し風通しのよい土壌があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、勉強会、サービスの質向上の取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が困っていること、不安、要望に寄添った話し合いを行い、本人の安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できるような様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力しおおむねその関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もいる。	将棋を嗜む人たちで名人戦も行われました。家族の協力で日中は自宅へ戻り、孫のために得意な洋裁に励む利用者もいます。こだわりの美容室へ通ったり、長年親しんだ地方新聞の活字を心待ちにする姿もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向の把握に努め、本人本位に検討をしている。	“何を言われても肯定で受け止める、職員の気構えが利用者に浸透することで、気さくな会話ができる関係づくりを目指しています。掘り出された想いは介護記録に記載して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の変化に気を付け、把握に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。 ケアプラン作成時には職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。	交代勤務で多方面からの観点が得られています。そのため敢えて担当を決めずケアプラン会議は全職員で実施しています。暫定プランを提示して家族の要望を聴き、状態変化がない限り3ヶ月ごとの見直しとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を支援経過表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に主治医との連携をとり、より良い関係を築いて適切な医療を受けられている。	緊急時は24時間体制で対応が可能であることから7割の人が協力医に変更しています。協力医へは職員同行で毎月定期受診し、医療的処置が必要な利用者は主治医との密な連絡で往診が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の日々の変化、体調などの気づきに対して、看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関は同法人内にもあり入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、ご家族、ご本人と話をし施設で出来る事の説明を入所時に行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。	過去3年間実績はありませんが、医療関係者との連携から終末期を迎える準備は概ね整っています。職員には契約書の項目を一読し「看取りに取組む事業所、としての認識と心構えを伝え、方針の統一を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年二回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。	管理者考案のスロープは屋内用と非常階段用を製作し、実践に備えた訓練を行っています。2名の無線資格取得者と無線機を常備したことで法人本部を中心とする情報連絡網が活用できる状態となっています。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。	法人の接遇研修、新人研修において知識を身につけています。生活歴に合わせた言葉かけに配慮しアセスメントを大事にしています。呼び方に関してはどう呼ばれたいかを本人や家族に確認して決めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。洗顔など整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っている。	食材は買い置きせず毎日買い物に出かけています。食べたい物を聞き評判の良かった料理を取入れ、1、2階同じメニューとしています。畑で採れたナスやトマト、さつま芋も食卓に並びます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。	機能維持が重点になりますが、下肢の痛みで歩けなかった人が徐々に歩けるようになり、オムツからリハパン、日中は綿パンツで過ごせるほどに改善した例があり、トイレでの排泄を基本としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫をしている。必要によっては医師からの指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。	1階に檜リフト浴、2階に家庭浴を設置し本人の入りたい浴室を選ぶ楽しみがあります。週3回の入浴を目安とし足ふきマットは個人用を準備しています。入浴剤やお茶湯、季節の変わり湯には温泉気分でも飛び出します。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意し、場合によっては医師に相談をして調節を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせた楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出はある程度出来ており、家族の協力を得て出かけられるよう支援している。	住宅街をぬけて公園までの散歩コースがあり食材の買い物にも一緒に出かけています。春には瀬戸川沿いの桜、蓮花寺の藤と季節に触れ、外食は少人数で見えて選べるビュッフェ形式のレストランが人気です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持をされている入居者もあり、希望や力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物をして楽しんでいる。	1階はオレンジ、2階はグリーンを基調としたアイランドキッチンと椅子が印象的です。食事や入浴は階を隔てず交流が盛んで、気候の良い時にはウッドデッキで青々とした畑を眺める癒しのティータイムとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものを置き過ごしやすい空間作りに努めている。	カーテンとベッド、クローゼットが備え付けられ、馴染みの椅子や筆筒が持ち込まれています。どの居室にも敬老会の表彰状が誇らしげに飾られ、枕元にきれいに並べられた小物の数々に安寧の生活が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由な生活ができるよう心掛けている。		